

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第1部門第2区分
【発行日】令和6年5月9日(2024.5.9)

【公開番号】特開2022-110580(P2022-110580A)
【公開日】令和4年7月29日(2022.7.29)
【年通号数】公開公報(特許)2022-138
【出願番号】特願2021-6070(P2021-6070)
【国際特許分類】
A 6 3 F 5/04(2006.01)
【F I】

10

A 6 3 F 5/04 6 5 2
A 6 3 F 5/04 6 2 0

【手続補正書】
【提出日】令和6年4月26日(2024.4.26)
【手続補正1】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項1】

20

遊技者の押圧操作に応じて変位可能なボタン部と、
前記ボタン部を変位可能に配置するための凹部と、
前記凹部を形成するベース部材と、
前記凹部に空気を送り出す送風機と、を備え、
前記ボタン部が基準位置であるとき、及び前記ボタン部が押圧操作されて前記基準位置から変位した変位位置であるときの何れであっても、前記送風機から前記凹部に送り出された空気が、前記ボタン部と前記凹部との隙間から噴出することが可能に構成され、
前記凹部の底には、空気導入口が設けられており、
前記送風機は、前記空気導入口に連結された直線状のダクトを通じて空気を送り出し、
前記凹部の底の裏側には、前記ボタン部に光を照射するための複数の発光素子を有する発光基板が設けられており、
前記凹部の底には、前記複数の発光素子の光を前記ボタン部に導く複数の導光孔が形成されており、
前記発光基板には、前記ダクトを回避する切り欠き部が形成されており、
前記発光基板には、前記ボタン部の変位を検出するための変位検出手段が設けられており、
前記凹部の底には、前記ボタン部に対して前記変位検出手段を露出させる開口が形成されており、
前記ボタン部の裏側には、遮光板が設けられ、
前記遮光板には、前記複数の導光孔から前記複数の発光素子の光を前記ボタン部へと導く複数の貫通孔が形成されているとともに、前記変位検出手段の変位検出対象となる検知部が形成されていることを特徴とする遊技機。

30

40

【手続補正2】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0005
【補正方法】変更
【補正の内容】

50

【0005】

しかしながら、この種の遊技機では、市場において新機種が断続的に求められており、演出効果をより高める必要性があった。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

本発明は、このような点に鑑みてなされたものであり、演出効果をより高めることができる遊技機を提供することを目的とする。 10

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

本発明に係る遊技機は、
遊技者の押圧操作に応じて変位可能なボタン部と、
前記ボタン部を変位可能に配置するための凹部と、 20
前記凹部を形成するベース部材と、
前記凹部に空気を送り出す送風機と、を備え、
前記ボタン部が基準位置であるとき、及び前記ボタン部が押圧操作されて前記基準位置から変位した変位位置であるときの何れであっても、前記送風機から前記凹部に送り出された空気が、前記ボタン部と前記凹部との隙間から噴出することが可能に構成され、
前記凹部の底には、空気導入口が設けられており、
前記送風機は、前記空気導入口に連結された直線状のダクトを通じて空気を送り出し、
前記凹部の底の裏側には、前記ボタン部に光を照射するための複数の発光素子を有する発光基板が設けられており、
前記凹部の底には、前記複数の発光素子の光を前記ボタン部に導く複数の導光孔が形成されてあり、 30
前記発光基板には、前記ダクトを回避する切り欠き部が形成されており、
前記発光基板には、前記ボタン部の変位を検出するための変位検出手段が設けられており、
前記凹部の底には、前記ボタン部に対して前記変位検出手段を露出させる開口が形成されてあり、
前記ボタン部の裏側には、遮光板が設けられ、
前記遮光板には、前記複数の導光孔から前記複数の発光素子の光を前記ボタン部へと導く複数の貫通孔が形成されているとともに、前記変位検出手段の変位検出対象となる検知部が形成されていることを特徴とする。 40

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

本発明によれば、演出効果をより高めることができる。